

第3章 官民連携によるまちづくりの可能性

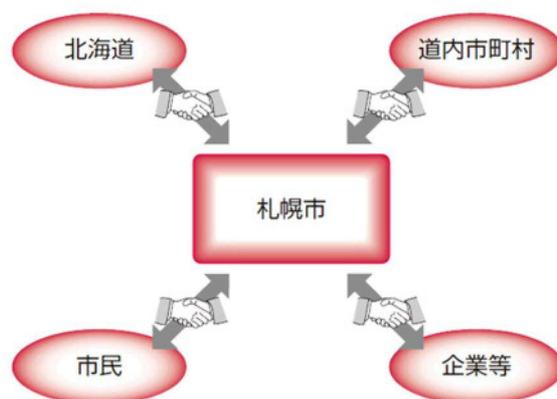
3-1 官民連携の重要性

戦略ビジョンでは、今後の行財政運営上、特に踏まえるべき重要な視点の一つとして、以下のとおり「市民・企業などとの連携の強化」を掲げています。

■市民・企業などとの連携の強化

複雑・多様化する社会的課題に対しては、社会が一丸となって取り組むことがより効果的であり、市民・企業などの力を生かすことが重要であることから、行政を含めた相互の連携協働の関係を一層深化させる取組を進めていきます。

そして、都市の価値の総合的な向上を図るために、都市基盤の整備等については、公共施設の整備だけにとどまらず、規制緩和や補助制度などを通じて、民間企業の投資の動きを活発化するための支援を行っていきます。



札幌市では、前述のとおり、今後は人口が減少に転じる見込みであり、生産年齢人口の減少や少子高齢化が更に進展することが予想されています。

これらの社会情勢の変化や厳しい財政状況の中では、上記の考え方にに基づき、民間の活力を活用することにより、サービスの向上やコストの縮減を図り、効果的にまちづくりを進めていくことが重要となっています。

こうした背景の下、札幌市では、地域交流拠点新さっぽろなどで、民間活力を生かしたまちづくりを進めてきました。

3-2 官民連携にあたって民間事業者を求める基本的事項

『清田』の課題解決に向けた“『清田』の周辺地域にも視野を広げた民間活力の活用”にあたっては、『清田』における民間開発の誘発へとつなげていくため、『清田』周辺で民間事業者が創出するにぎわいや交流の効果を、しっかりと『清田』に波及させていくことが重要であることから、札幌市と連携してまちづくりを進める民間事業者には、以下のような適性が必要であると考えます。

官民連携にあたって民間事業者を求める基本的事項

○にぎわいや交流を生み出せること

『清田』ににぎわいや交流をもたらすためには、連携する民間事業者の敷地（以下、「民間敷地」と言う。）における取組によって、人々のにぎわいや交流を創出することが求められます。

○『清田』と民間敷地間における相互の人の動きを生み出せること

民間敷地から『清田』へにぎわい・交流の効果を波及させるためには、民間敷地が、『清田』から徒歩やバスなどにより短時間で移動できる立地であるとともに、にぎわい・交流が生まれる場の創出や移動手段の充実により、『清田』と民間敷地との相互の人の動きを創出することが求められます。

○官民連携によるまちづくりを継続的に実施できること

まちづくりには時間を要することから、まちづくりの取組による効果を発揮するためには、長期的に取組を実施していく必要があります。そのため、連携する民間事業者には、札幌市とともに、継続的にまちづくりに取り組んでいく姿勢が明確であることが求められます。

3-3 官民連携によるまちづくりに向けた民間事業者との意見交換

札幌市では、『清田』を含めた地域交流拠点における多様な都市機能の集積やにぎわい・交流が生まれる場の創出に向け、民間活力を生かした官民連携によるまちづくりの可能性を探るため、複数の地域交流拠点において施設を運営し、まちづくり活動に積極的に関与している民間事業者との意見交換を重ねてきました。

この意見交換において、『清田』については、『清田』に近接する平岡3条5丁目「イオンモール札幌平岡」を運営するイオン北海道株式会社（以下、「イオン北海道」と言う。）から、当該施設の機能強化により清田区民の利便性を更に高める取組を検討したいとの意向が示されました。

これを受け、札幌市では、『清田』の現状を踏まえ、イオン北海道が所有する平岡3条5丁目の敷地（以下、「平岡3条5丁目地区」と言う。）における施設の機能強化を契機とした官民連携によるまちづくりを進めることで、『清田』及びその周辺の都市機能を高め、『清田』が支える後背圏の豊かな生活の実現につなげることができないか、可能性を模索することとしました。